

製品	分類	ArcGIS 10.2 で未サポート	ArcGIS 10.2 の次のバージョンで未サポート
ArcGIS for Desktop	開発環境		・ Visual Basic for Application (VBA) ※1
	動作環境		・ Windows Server 2003/2003 R2
ArcReader	動作環境		・ Windows Server 2003/2003 R2
ライセンス マネージャ (ArcGIS for Desktop、ArcGIS Engine)	動作環境		・ Solaris
ArcInfo Workstation	ソフトウェア	※バージョン 10.2 は提供されません。 ※2	
ArcGIS Engine	動作環境		・ Windows Server 2003/2003 R2
ArcGIS Runtime	動作環境		・ Windows XP, Windows Vista ・ .NET Framework 4
ArcGIS for Server	コンポーネント	・ Web ADF (Application Developer Framework) ※3 ・ ArcGIS Server Manager Web マッピング アプリケーション ※4	・ ArcGIS Server Manager の Internet Explorer 7 対応
ArcGIS for Server - Spatial Data Server	コンポーネント	※バージョン 10.2 は提供されません。 ※5	
ArcGIS for Server - ArcSDE	コンポーネント		・ コマンドライン ツール ※6 ・ アプリケーション サーバ接続 ※7 ・ ArcSDE Developer Kit ※8
ArcGIS for Windows Mobile アプリケーション	動作環境	・ Windows Mobile 5.0	
ArcPad	コンポーネント		・ ArcGIS for Server 用 ArcPad エクステンション ※9

※1 VBA で実現していた機能の移行については以下が考えられます。

◆処理を自動化したい場合

Python の利用をお勧めします。

◆新しいユーザ インタフェースを追加したい場合

ArcGIS 10.0 から「アドイン」と呼ばれるカスタマイズ手法が登場しました。従来のカスタム コマンドと似ており、コマンドやツール、ドッカル ウィンドウなどを作成することができますが、作成したコマンドをレジストリに登録する必要がないなど、より容易な配布・管理が可能です。

アドインは VB.NET あるいは C# で開発することができます。

※2 ArcGIS 10.2 for Desktop 環境で ArcInfo Workstation 10 を利用することは可能です。

※3 Web アプリケーションを開発する際は ArcGIS Web Mapping (JavaScript, Flex, Silverlight) の使用をお勧めします。

※4 ArcGIS Web Mapping (JavaScript, Flex, Silverlight) ベースですぐに利用できる Web マッピング アプリケーション (ArcGIS Viewer for Flex, ArcGIS Viewer for Silverlight, ArcGIS.com マップ ビューア) へ移行することをお勧めします。

※5 ArcGIS 10.2 環境で Spatial Data Server 10.1 を利用することは可能です。Spatial Data Server フィーチャ サービスを ArcGIS for Server フィーチャ サービスへ移行することをお勧めします。ArcGIS 10.2 for Server フィーチャ サービスは Spatial Data Server でサポートされる機能を利用できるように拡張されています。

※6 ArcCatalog もしくは ArcMap のカタログ ウィンドウからアクセスできるジオデータベース管理機能、およびバージョン 10.1 から提供されたジオプロセッシング ツールの使用をお勧めします。

※7 ダイレクト コネクションの使用をお勧めします。

※8 ArcGIS Runtime SDK や ST\_GEOMETRY 関数の利用などから空間タイプへアクセスすることができ、これらの機能の使用をお勧めします。

※9 ArcPad 10.2 でのフィーチャ サービスに対する新しい機能を利用することをお勧めします。ArcGIS 10.2 for Server のサービスとの同期などをサポートする機能です。  
注意：ArcPad 10.2 は、ホストされた、あるいはオンプレミスのフィーチャ サービスに対するオンラインおよびオフラインの編集をサポートします。そのため、ArcGIS 10.1 および 10.2 のサービスには ArcGIS for Server 用 ArcPad エクステンションは必要ありません。ArcGIS 10.1 のサービスをご利用の方は、この新しい機能を利用することを推奨します。このフィーチャ サービスに関する新機能は、ArcGIS 10.0 のサービスにも利用することはできますが、REST エンドポイントが現在ある機能のすべてには対応していません（例：リレート テーブルなど）。このため、ArcGIS for Server 用 ArcPad エクステンションを ArcPad 10.2 でも提供します。ArcGIS 9.3 のサービスを新しいバージョンの ArcPad で利用する方、あるいはリレート テーブルのサポートを必要とする ArcGIS 10.0 のサービスを利用している方を対象に、提供します。ArcPad 10.2 の次のバージョンでは、ArcGIS for Server 用 ArcPad エクステンションを提供しません。